



⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p>	<p>社会で起きている変化                      (「データサイエンス入門A1」回目講義)                      (「AIと情報リテラシー」1回目、2回目、15回目講義)                      ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット                      ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化                      ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会                      ・複数技術を組み合わせたAIサービス                      ・人間の知的活動とAIの関係性</p> <p>データ・AI利活用の最新動向                      (「AIと情報リテラシー」1回目、3回目、4回目、5回目、6回目講義)                      ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)                      ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)                      ・基礎モデル、大規模言語モデル、拡散モデル</p>
<p>(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p>	<p>社会で活用されているデータ                      (「データサイエンス入門A1」回目、2回目講義)                      ・調査データ、実験データ、行動ログデータ、機械の稼働ログデータ                      ・1次データ、2次データ                      ・構造化データ、非構造化データ                      ・データ作成とビッグデータ                      ・データのオープン化</p> <p>データ・AIの活用領域                      (「データサイエンス入門A1」回目、2回目講義)                      (「AIと情報リテラシー」1回目～6回目講義、7回目～15回目実習)                      ・データ・AI活用領域の広がりに(生産、消費、文化活動など)                      ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど                      ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など                      ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用</p>
<p>(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>データ・AI利活用のための技術                      (「データサイエンス入門A3」回目～6回目実習)                      (「AIと情報リテラシー」1回目～6回目講義、7回目～15回目実習)                      ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など                      ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など                      ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など                      ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ                      ・認識技術、ルールベース、自動化技術                      ・マルチモデル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)</p> <p>データ・AI利活用の現場                      (「データサイエンス入門A1」回目、2回目講義)                      (「AIと情報リテラシー」7回目～15回目実習)                      ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)                      ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用、事例紹介</p>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	<p>データ・AIを扱う上での留意事項                      (「AIと情報リテラシー」1回目講義、7回目～15回目実習)                      ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)                      ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト                      ・データ倫理、データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護                      ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)                      ・データバイアス、アルゴリズムバイアス                      ・AIサービスの責任論                      ・データガバナンス                      ・データ・AI活用における負の事例紹介                      ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・犯濫など)</p> <p>データを守る上での留意事項                      (「データサイエンス入門A1」回目講義)                      (「AIと情報リテラシー」1回目講義、15回目実習)                      情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)                      ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介                      ・サイバーセキュリティ</p>
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	<p>データを読む                      (「データサイエンス入門A3」回目～6回目実習)                      ・データの種類(量的変数、質的変数)                      ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)                      ・代表値の性質の違い(実社会では平均値≠最頻値でないことが多い)                      ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値                      ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)</p> <p>データを説明する                      (「データサイエンス入門A3」回目～6回目実習)                      ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)                      ・データの比較                      ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)                      ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)                      ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方</p> <p>データを扱う                      (「データサイエンス入門A3」回目～6回目実習)                      ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)                      ・データの集計(和・平均)                      ・データの並び替え、ランキング                      ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)                      ・表形式のデータ(csv)</p>

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. データおよびAIの活用に際して求められる倫理的・法的な観点について理解を深め、個人情報の保護に関する基本的な配慮と責任を持って行動できる力。
2. AIに関する基礎的かつ正確な知識を習得し、AI技術がもたらす社会的変化に対して臨機応変かつ主体的に対応できる力。
3. データサイエンスの基礎的知識とスキルを習得し、データを適切に読み解く力および、その内容を正確に伝達する力。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
政治経済学科	528	181	130	610	54												54	9%
欧米文化学科	163	76	40	280	13												13	5%
日本文化学科	289	104	70	310	24												24	8%
子ども教育学科	173	96	50	350	6												6	2%
心理福祉学科	455	240	110	490	17												17	3%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	1,608	697	400	2,040	114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114	6%

## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

### ① 全学の教員数

(常勤)	84	人
(非常勤)	181	人

### ② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

1	人
---	---

### ③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	伊豆田 義人
(役職名)	教授

### ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	基礎総合教育部会、AI・データサイエンス教育委員会
------	---------------------------

### ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	基礎総合教育部会内規、AI・データサイエンス教育委員会内規
------	-------------------------------

### ⑥ 体制の目的

全学共通カリキュラムの編成、教員配置等を円滑に行うことを目的に「基礎総合教育部会」を設置。さらに、本部会の下部組織として、課程専門委員会である「AI・データサイエンス教育(以下「委員会」いう)を設置している。

当該委員会は、データサイエンス教育の円滑な運営を図るため、データサイエンス教育のカリキュラムの編成、課程担当教員の配置、自己点検・評価、その他データサイエンス教育に関する事項を審議し、実施計画と実施状況の総合的なマネジメントを行うことを目的とし、

上記目的を達成するため、「聖学院AI・データサイエンスプログラム(リテラシーレベル)」においては、以下に掲げる業務を行う。

- ① 当該プログラムを構成する授業科目の運営、改善等に関する事項を検討する。
- ② 当該プログラムの点検及び評価を行い、その結果を公表する。

### ⑦ 具体的な構成員

岡村佳代(基礎総合教育部長、留学生センター所長、基礎総合教育部 教授)  
 吉川臨太郎(基礎総合教育副部長、基礎総合教育部 特任講師)  
 伊豆田義人(IR室副室長、基礎総合教育部 教授)  
 塩崎亮(FD・SD委員長、社会教育・図書館情報委員長、基礎総合教育部 教授)  
 松永直人(学生生活部長、基礎総合教育部 准教授)  
 井上兼生(教職センター所長、教職委員長、人文学部日本文化学科 特任教授)  
 中川英幸(英語教育委員長、基礎総合教育部 特任講師)  
 齊藤伸(ラーニングセンター所長、基礎総合教育部 特任講師)  
 木村美里(基礎総合教育部 特任講師)  
 西村由美(基礎総合教育部 特任講師)  
 森清(学長特別補佐(教育改革)、FD・SD委員長(SD担当)、学務部長)  
 飯田純(学務部教育委支援課マネージャー)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	6%
令和8年度予定	10%
令和9年度予定	25%
令和10年度予定	50%
令和11年度予定	75%

具体的な計画

本プログラムを構成する科目は、全学共通教育課程「聖学院エッセンシャルズ群(通称)」として設置している。現時点では全学部・学科の学生が履修できる卒業要件上の選択科目であるが、履修者数・履修率向上のため、全学共通カリキュラム全体の開講科目の見直しと教育環境の整備を段階的に行い、以下の通り、令和9年度より必修科目として開設することを計画している。

【令和8年度】

什器入替による授業収容定員の増員と開講クラス増設により履修者数の増加を図る。

【令和9年度以降】

令和9年度以降の入学者より、当該プログラムを構成する科目を必修科目とする。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学では、BYOD(Bring Your Own Device)を推奨しており、入学時にノートPCの購入を促している。

令和7年度はプログラム開設年度ということもあり、プログラムを構成する科目の履修者数がPC教室の収容定員内であったため全員受講可能であったが、令和8年度からは履修者の増加が見込まれるため、PC教室の什器を入れ替え収容定員の増加を予定している。また令和9年度からは開講クラスの増設を予定している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

全学部・全学科必修の初年次科目での授業や大学ポータルサイト、メールなどで周知を行っている。また、本学のWebサイトに本プログラムの専用ページを設置している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、できる限り多くの学生が履修・修得できるよう、以下のようなサポート体制を整備している。

- ・教室棟や図書館棟をはじめ、全て建物にWi-Fi環境を整備。
- ・パソコン教室を授業の空き時間に学生の自由利用に開放。
- ・ノートパソコンの学内貸出。

その他、学生の学修をサポートするラーニングセンターを設置。常駐スタッフから個別指導を受けることもできる。また、センター内にはラーニング commons の機能も備え、ノートPCも常設しており、個人やグループで学修する環境も整っている。

を

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業担当者は週に1コマ(90分)以上のオフィスアワーを設定している。受講生は必要に応じて学習指導、質問を受けることができる。

またLMS(授業ポータルサイト)のQ&A機能により担当者に質問できる他、Microsoft Teamsのチャット機能により、対面で質問・相談できない学生のオンラインによる指導も可能となっている。

その他、ラーニングセンターでは個別指導の他、PCの使い方や学習に関する相談を受け付ける環境も整っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 内部質保証推進IR委員会、全学評価委員会

(責任者名) 小池 茂子  
 (役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは「AIと情報リテラシー」と「データサイエンス入門A」の二つの科目で構成されている。いずれも令和7年度に開設された科目であり、担当専任教員の着任に合わせて開講したため、履修者数は比較的少数にとどまっている。しかし、春学期と同一内容で開講される秋学期の「AIと情報リテラシー」の登録者数が2倍以上となっていることから、今後は履修率の向上が期待される。</p> <p>本学では、内部質保証推進IR委員会と全学評価委員会によるプログラムの自己点検・評価を実施する体制を整備している。教育支援課との情報共有により、履修登録状況や単位修得状況を正確に把握し、各年度における履修・修得状況の確認と分析を行うことができる。</p> <p>さらに、基礎総合教育部会およびAI・データサイエンス教育委員会を中心に、評価結果に基づく改善策を検討・実施し、進化させる体制を構築しており、プログラムの履修率向上と質的改善を継続的に図ることができる。</p>
学修成果	<p>本プログラム対象の授業では、Microsoft Teamsや授業ポータルサイト「UNIPA」で作成した授業用グループを活用し、各回の授業資料や課題を配布している。また、「チャット」機能を用いて学生と個別にやり取りを行い、課題を回収することで、提出状況や理解度を把握している。提出状況や理解度が芳しくない学生には、個別サポートを実施し、学修の定着を図っている。これにより、学生の理解度と到達目標の達成状況を確認しながら授業を進めることができる。</p> <p>また、教育支援課では「授業評価アンケート」の集計結果や成績評価の状況を分析し、基礎総合教育部会およびAI・データサイエンス教育委員会で構成される「プログラム改善体制」と連携しながら、次年度以降の授業改善を計画・実施できる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の理解度	<p>毎学期、授業評価アンケートを実施しているが、対象は開講科目の一部であり、「AIと情報リテラシー」と「データサイエンス入門A」は令和7年度春学期の調査には含まれていなかった。ただし、令和7年度秋学期には「AIと情報リテラシー」が調査対象となり、今後は本プログラムを構成する2科目について継続的にアンケートを実施する予定である。</p> <p>授業評価アンケートでは、「教員の説明はわかりやすかった」「授業の難易度は自分に合っていた」「この授業には意欲的に取り組んだ」など、授業内容の理解度に関する質問を設定している。さらに自由記述欄を設けているため、学生の理解度や学修状況をより詳細に把握できる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	<p>大学総務課が実施する「授業評価アンケート」やIR室が実施する「大学生活に関するアンケート」には、後輩や他の学生への推奨度に関する質問項目は設けられていない。先に述べたとおり、本プログラムの科目は令和7年度の授業評価には含まれていなかったが、「授業評価アンケート」には「この授業には意欲的に取り組んだ」や「自由記述欄」などの質問項目があり、学生の知的関心や達成感を把握することができる。</p> <p>なお、令和9年度には本プログラムの2科目を必修科目とする予定であり、履修率の向上と学修意欲の定着が期待される。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>専任教員の着任に合わせて令和7年度に初めて開講したため、履修者数や履修率の具体的な目標は設定していなかったが、他の情報系科目の平均受講者数である20名程度を想定していた。特に「AIと情報リテラシー」は新設科目であり、従来の情報系科目と名称や内容が一部異なっていたため、周知が十分に行き届かず、履修者数は伸び悩んだ。</p> <p>本学は人文社会学系の大学であり、データサイエンスやAIに対して苦手意識を持つ学生が一定数存在すると考えられる。そのため、当該プログラムを学ぶ意義や授業内容を丁寧に説明し、学生の理解を深めることで、より多くの学生が興味を持ち履修するよう積極的に促していく。実際、春学期と同一内容で秋学期に開講した「AIと情報リテラシー」では、登録者数が倍増しており、履修率の向上が期待できる。なお、令和9年度には本プログラムの2科目を必修科目とする予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは令和7年度入学生から開始したため、現時点では修了し卒業した学生はならず、令和11年3月卒業生が初めての修了者となる予定である。</p> <p>今後は、就職支援部門と連携し、プログラム修了者の進路を継続的に把握するとともに、本学IR室が実施する「卒業生就職先アンケート」を通じて、企業からの評価を収集・分析し、プログラム改善に活用する。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>上で述べた、本学のIR室が実施する「卒業生就職先アンケート」には「本学の卒業生をご採用いただいた企業の方にお伺いします。本学の卒業生は、以下の能力が身についていると思われますか。」という設問があり、「数量的スキル」「情報リテラシー」「問題解決力」「これまでに得た知識・技能・態度等を総合的に活用し、課題を解決する」を評価してもらっているため、そのデータをもとに授業の改善ができる。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>「AIと情報リテラシー」の授業は、講義と演習の二部構成で実施している。講義では、人文社会学系の学生に配慮し、AIの歴史や基本概念、文書生成AIや画像生成AIの仕組みを紹介している。また、AI分野の背景にある脳科学や神経心理学など「人間に関する科学」の話題を取り入れることで、興味や好奇心を喚起し、学修意欲を高める工夫を行っている。</p> <p>演習では、生成AIの活用方法とその可能性を具体的に示し、教育、福祉、ビジネス、行政、研究、日常生活、娯楽など多様な場面での応用事例を確認しながら、豊かな社会の構築におけるAIの役割を考える機会を提供している。</p> <p>「データサイエンス入門A」では、ExcelやRなどのデータ分析ツールを用い、実社会のデータや課題を取り上げることで、データ駆動社会が直面する問題を理解させるとともに、学生の身近なところで数理・データサイエンス・AIのスキルが必要であることに気づかせる工夫をしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学は人文社会学系であるため、AIやICT、数学の高度な専門内容を重視したカリキュラムの実施は困難である。そのため、本プログラムを構成する「AIと情報リテラシー」および「データサイエンス入門A」では、担当教員が作成した授業資料を配布し、授業テキストとして活用している。</p> <p>授業資料では、社会や企業で求められる基本的な知識とスキルの習得を目的とし、座学では身近な事例を多く取り上げ、定性的な説明を通じて数理・データサイエンス・AI分野の本質的な概念をわかりやすく解説している。演習資料では、パソコンやソフトの操作手順をステップごとに画像で示し、繰り返し学習することで自然に技能を習得できるよう工夫している。</p> <p>さらに、ラーニングセンターと情報センターによる支援体制を整備し、パソコン操作に不安を持つ学生へのサポートを充実させている。</p>

講義基本情報 1

科目授業名	AIと情報リテラシー	授業コード	12C51510				
担当教員	伊豆田 義人						
科目	エッセンシャルズ科目(125) ／全学共通科目(124以前)	必修・選択	選択科目	単位数	2.00単位	年度・学期	2025年度春学期
ナンバリング	THI-100			授業形態	対面		
カリキュラム上の位置付け(資格)							

講義基本情報 2

実務経験のある教員の有無・経験内容	-
実務経験に関連する授業内容	

講義概要

(1) 学びの意義と目標	<p>現代社会は「情報社会」から「AI社会」へと急速に移行しつつあります。AI技術は、私たちの生活のあらゆる場面に浸透し、社会構造や人間の営みに大きな影響を与えています。</p> <p>この授業では、人文社会学系の視点からAIを捉え、その仕組みや歴史、応用例、倫理的課題などを多角的に学びます。また、生成AIをはじめとする最新技術についても実践的に理解を深めることで、AI社会における人間の役割や未来の社会像について考察します。</p> <p>AIの基本的な構造や学習方法を学ぶとともに、人間の脳との比較を通じて「知能とは何か」「人間らしさとは何か」といった根源的な問いにも触れていきます。</p>
(2) 内容	<p>この授業では、AI（人工知能）について、人文社会学系の観点から体系的に学びます。まず、AIの定義や分類、歴史的背景を理解し、人間の脳との関係性を踏まえた知能の概念を考察します。</p> <p>次に、機械学習や深層学習などの技術的基盤を学び、画像認識、自然言語処理、音声認識などの応用例を通じて、AIの実社会での活用方法を具体的に理解します。</p> <p>後半では、生成AIの特徴と機能を確認し、ビジネス、教育、学術、音声、画像、動画などの分野における活用方法について、課題作成を通じて実践的に学びます。</p> <p>最終回では、AIとSociety 5.0、情報セキュリティ、倫理的課題などを踏まえ、AI社会の未来について総合的に考察します。</p>

授業計画

第1回	ガイダンス、人文社会学系の学部でAIを学ぶ意義について、AIとは何か、私たちの身の回りにおけるAIの事例、特化型AIと汎用型AI、知能とは何か、AIのさまざまな定義、弱いAIと強いAI、人間の脳とAIの関係、AIの歴史とその背景、AIブームの変遷、AIの倫理的・法的な課題、責任あるAIと企業の取り組み、AI開発の最前線。
第2回	超AIとは何か、人間のIQとAIのIQの比較、超AIに関する課題とリスク、感性AIとは何か、感性AIの応用例、感性AIと人間の感情の関係、人間の感情とは何か、歴史や文化に見る人間の本質や心のありかについての考察、AI研究と脳の関係、神経細胞とは何か、神経細胞による情報伝達、学習と記憶の仕組み、マッカロックとピッツによる神経細胞モデル。
第3回	マッカロックとピッツの神経細胞モデルの原理、フランク・ローゼンブラットによるパーセプトロン、ニューラルネットワークとは何か、ニューラルネットワークの学習モデル、機械学習とは何か、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の概要、強化学習の過程。
第4回	深層学習とは何か、ImageNetコンペとディープラーニングの関係、Google DeepMindによるAI開発、深層学習と画像認識、自然言語処理、音声認識の関係、AIを活用した社会づくり、AIとノーベル賞の関連、AI開発における電力や計算力などの課題。
第5回	AIと言語の関係、自然言語処理とは何か、自然言語処理における形態素解析、構文解析、意味解析、脳の言語処理とAIによる自然言語処理の比較、さまざまな言語モデルの紹介、大規模言語モデルとは何か、トランスフォーマーとアテンション技術、自然言語処理の応用例、機械翻訳、音声認識、文章要約、感情分析の仕組みと活用例。
第6回	AIと画像処理の関係、AIによる画像の扱い方、AIが画像を理解する仕組み、AIによる文字認識の仕組みと応用例、AIによる顔認識の仕組みと応用例、顔認証技術の課題と注意点、AIの画像技術と自動運転の関係、AIと人間型ロボットの関係。

第7回	主な生成AIの特徴と機能を確認します。課題の作成を通じて、基本的な使い方や注意点を理解しながら、基礎的なスキルを習得します。
第8回	課題の作成を通じて、生成AIのビジネス分野への活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第9回	課題の作成を通じて、生成AIのデータ分析への活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第10回	課題の作成を通じて、生成AIの教育分野などへの活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第11回	課題の作成を通じて、生成AIの学術分野への活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第12回	課題の作成を通じて、生成AIによる音声の活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第13回	課題の作成を通じて、画像生成AIの活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第14回	課題の作成を通じて、動画生成AIの活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第15回	まとめ、AIとSociety 5.0、データ駆動型社会の関係、ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ヒューマノイドと次世代AI技術への展望、AI技術と情報セキュリティ、生成AIの留意事項。

学びのキーワード

(1)	AIの定義と歴史、AI社会の構造、AI技術の展望
(2)	人間の脳とAIの関係、神経細胞モデル、知能の理解
(3)	AIの倫理と法的課題、責任あるAI、情報セキュリティ
(4)	生成AIの応用と可能性・限界、画像・音声・動画生成技術
(5)	AIの実践的活用（ビジネス、教育、学術分野など）

評価方法

評価項目	評価割合	備考
授業内課題・ノートの提出	40%	授業課題や発表、期末におけるノートの授業提出。
期末課題	35%	期末試験に代わるもの。
平常点	25%	授業内のディスカッション、意欲、取り組み方、授業態度など。
評価方法注意点	評価は、平常点（授業への参加態度、意欲、発言など）および、ノートと課題提出などによって行います。 平常点には、授業中の私語、無断欠席・遅刻・早退、授業と関係のない電子機器の使用、注意散漫な態度なども含まれます。これらは評価に影響しますので、積極的かつ誠実な姿勢で授業に臨んでください。	
フィードバックの方法	授業中や授業終了後に質問や相談を受け付けます。オフィスアワーや対面での対応に加えて、メールやTeamsによる質問も可能です。理解が不十分な点や疑問がある場合は、遠慮なく相談してください。	

準備学修【予習】 (90-120分)	事前に配布された資料を読み、授業で扱うテーマやキーワードについて理解を深めておいてください。特に、AIに関する基本的な用語や概念については、あらかじめ確認しておくことが望まれます。
準備学修【復習】 (90-120分)	授業内容を整理し、自分なりに授業ノートをまとめてください。講義で取り上げた用語や技術、事例などを振り返りながら、理解を深めるように努めてください。必要に応じて、配布資料や参考文献も活用してください。

アクティブラーニング

PBL(課題解決型学習)	テーマに沿ったプロジェクト又は特定の問題が提示され、それらの問題解決を通して、様々な知識・スキルを学ぶ授業。	○
反転授業	知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業。	-
ディスカッション、ディベート	授業中に特定のテーマについて対話又はディスカッションを通して理解を深める授業。ディベートとは特定のルール下で議論の勝敗を競うものを指す。	○
グループワーク	少人数のグループに分かれ、与えられた課題に協同で取り組む授業。2人組によるペアワークも含む。	○
プレゼンテーション	受講者がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の受講者の前で自ら発表を行わせる授業。	○

実習、実技、実験、フィールドワーク	実習や実技等の体験的な学習や、学内外のフィールドに赴き、調査や観察を通して情報収集を行わせる授業。	-
その他		
ICT活用		
双方向型授業	クリッカー、タブレット端末、UNIPA等を活用した双方向のコミュニケーションが存在する授業。	○
自主学習支援	e-ラーニングなどを活用した受講者の自主学習状況が把握できる授業外の学習支援。	○

受講者に対する要望	<p>AIという言葉に対して、理系の専門分野という印象を持つ方もいるかもしれません。しかし、AIは文系・理系を問わず、現代社会のあらゆる領域に関わる重要な技術です。</p> <p>この授業では、人文社会学系の視点からAIを捉え、「人間とは何か」「知能とは何か」といった根源的な問いを考えながら、AIの仕組みや応用について学びます。</p> <p>生成AIなどの最新技術にも触れながら、AI社会における人間の役割や倫理的課題についても考察します。</p> <p>初回授業ではガイダンスに加えて本題にも入りますので、受講を希望する方は必ず第1回から出席してください。</p>
-----------	---

教科書	特定の教科書は指定しません。各講義回に応じて、必要な資料を配布します。配布資料をもとに授業を進めますので、必ず事前に目を通しておいてください。
参考書	授業内容に関連する参考書や文献については、適宜授業中に紹介します。興味を持った分野については、自主的に調べることで理解を深めることができます。

講義基本情報 1

科目授業名	AIと情報リテラシー	授業コード	12C51520				
担当教員	伊豆田 義人						
科目	エッセンシャルズ科目(125) ／全学共通科目(124以前)	必修・選択	選択科目	単位数	2.00単位	年度・学期	2025年度秋学期
ナンバリング	THI-100			授業形態	対面		
カリキュラム上の位置付け(資格)							

講義基本情報 2

実務経験のある教員の有無・経験内容	-						
実務経験に関連する授業内容							

講義概要

(1) 学びの意義と目標	<p>現代社会は「情報社会」から「AI社会」へと急速に移行しつつあります。AI技術は、私たちの生活のあらゆる場面に浸透し、社会構造や人間の営みに大きな影響を与えています。</p> <p>この授業では、人文社会学系の視点からAIを捉え、その仕組みや歴史、応用例、倫理的課題などを多角的に学びます。また、生成AIをはじめとする最新技術についても実践的に理解を深めることで、AI社会における人間の役割や未来の社会像について考察します。</p> <p>AIの基本的な構造や学習方法を学ぶとともに、人間の脳との比較を通じて「知能とは何か」「人間らしさとは何か」といった根源的な問いにも触れていきます。</p>
(2) 内容	<p>この授業では、AI（人工知能）について、人文社会学系の観点から体系的に学びます。まず、AIの定義や分類、歴史的背景を理解し、人間の脳との関係性を踏まえた知能の概念を考察します。</p> <p>次に、機械学習や深層学習などの技術的基盤を学び、画像認識、自然言語処理、音声認識などの応用例を通じて、AIの実社会での活用方法を具体的に理解します。</p> <p>後半では、生成AIの特徴と機能を確認し、ビジネス、教育、学術、音声、画像、動画などの分野における活用方法について、課題作成を通じて実践的に学びます。</p> <p>最終回では、AIとSociety 5.0、情報セキュリティ、倫理的課題などを踏まえ、AI社会の未来について総合的に考察します。</p>

授業計画

第1回	ガイダンス、人文社会学系の学部でAIを学ぶ意義について、AIとは何か、私たちの身の回りにおけるAIの事例、特化型AIと汎用型AI、知能とは何か、AIのさまざまな定義、弱いAIと強いAI、人間の脳とAIの関係、AIの歴史とその背景、AIブームの変遷、AIの倫理的・法的な課題、責任あるAIと企業の取り組み、AI開発の最前線。
第2回	超AIとは何か、人間のIQとAIのIQの比較、超AIに関する課題とリスク、感性AIとは何か、感性AIの応用例、感性AIと人間の感情の関係、人間の感情とは何か、歴史や文化に見る人間の本質や心のありかについての考察、AI研究と脳の関係、神経細胞とは何か、神経細胞による情報伝達、学習と記憶の仕組み、マッカロックとピッツによる神経細胞モデル。
第3回	マッカロックとピッツの神経細胞モデルの原理、フランク・ローゼンブラットによるパーセプトロン、ニューラルネットワークとは何か、ニューラルネットワークの学習モデル、機械学習とは何か、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の概要、強化学習の過程。
第4回	深層学習とは何か、ImageNetコンペとディープラーニングの関係、Google DeepMindによるAI開発、深層学習と画像認識、自然言語処理、音声認識の関係、AIを活用した社会づくり、AIとノーベル賞の関連、AI開発における電力や計算力などの課題。
第5回	AIと言語の関係、自然言語処理とは何か、自然言語処理における形態素解析、構文解析、意味解析、脳の言語処理とAIによる自然言語処理の比較、さまざまな言語モデルの紹介、大規模言語モデルとは何か、トランスフォーマーとアテンション技術、自然言語処理の応用例、機械翻訳、音声認識、文章要約、感情分析の仕組みと活用例。
第6回	AIと画像処理の関係、AIによる画像の扱い方、AIが画像を理解する仕組み、AIによる文字認識の仕組みと応用例、AIによる顔認識の仕組みと応用例、顔認証技術の課題と注意点、AIの画像技術と自動運転の関係、AIと人間型ロボットの関係。

第7回	主な生成AIの特徴と機能を確認します。課題の作成を通じて、基本的な使い方や注意点を理解しながら、基礎的なスキルを習得します。
第8回	課題の作成を通じて、生成AIのビジネス分野への活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第9回	課題の作成を通じて、生成AIのデータ分析への活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第10回	課題の作成を通じて、生成AIの教育分野などへの活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第11回	課題の作成を通じて、生成AIの学術分野への活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第12回	課題の作成を通じて、生成AIによる音声の活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第13回	課題の作成を通じて、画像生成AIの活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第14回	課題の作成を通じて、動画生成AIの活用方法について、基礎的な知識とスキルを習得します。
第15回	まとめ、AIとSociety 5.0、データ駆動型社会の関係、ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ヒューマノイドと次世代AI技術への展望、AI技術と情報セキュリティ、生成AIの留意事項。

#### 学びのキーワード

(1)	AIの定義と歴史、AI社会の構造、AI技術の展望
(2)	人間の脳とAIの関係、神経細胞モデル、知能の理解
(3)	AIの倫理と法的課題、責任あるAI、情報セキュリティ
(4)	生成AIの応用と可能性・限界、画像・音声・動画生成技術
(5)	AIの実践的活用（ビジネス、教育、学術分野など）

#### 評価方法

評価項目	評価割合	備考
授業内課題・ノートの提出	40%	授業課題や発表、期末におけるノートの授業提出。
期末課題	35%	期末試験に代わるもの。
平常点	25%	授業内のディスカッション、意欲、取り組み方、授業態度など。
評価方法注意点	評価は、平常点（授業への参加態度、意欲、発言など）および、ノートと課題提出などによって行います。 平常点には、授業中の私語、無断欠席・遅刻・早退、授業と関係のない電子機器の使用、注意散漫な態度なども含まれます。これらは評価に影響しますので、積極的かつ誠実な姿勢で授業に臨んでください。	
フィードバックの方法	授業中や授業終了後に質問や相談を受け付けます。オフィスアワーや対面での対応に加えて、メールやTeamsによる質問も可能です。理解が不十分な点や疑問がある場合は、遠慮なく相談してください。	

準備学修【予習】 (90-120分)	事前に配布された資料を読み、授業で扱うテーマやキーワードについて理解を深めておいてください。特に、AIに関する基本的な用語や概念については、あらかじめ確認しておくことが望まれます。
準備学修【復習】 (90-120分)	授業内容を整理し、自分なりに授業ノートをまとめてください。講義で取り上げた用語や技術、事例などを振り返りながら、理解を深めるように努めてください。必要に応じて、配布資料や参考文献も活用してください。

#### アクティブラーニング

PBL(課題解決型学習)	テーマに沿ったプロジェクト又は特定の問題が提示され、それらの問題解決を通して、様々な知識・スキルを学ぶ授業。	○
反転授業	知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業。	-
ディスカッション、ディベート	授業中に特定のテーマについて対話又はディスカッションを通して理解を深める授業。ディベートとは特定のルール下で議論の勝敗を競うものを指す。	○
グループワーク	少人数のグループに分かれ、与えられた課題に協同で取り組む授業。2人組によるペアワークも含む。	○
プレゼンテーション	受講者がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の受講者の前で自ら発表を行わせる授業。	○

実習、実技、実験、フィールドワーク	実習や実技等の体験的な学習や、学内外のフィールドに赴き、調査や観察を通して情報収集を行わせる授業。	-
その他		
ICT活用		
双方向型授業	クリッカー、タブレット端末、UNIPA等を活用した双方向のコミュニケーションが存在する授業。	○
自主学習支援	e-ラーニングなどを活用した受講者の自主学習状況が把握できる授業外の学習支援。	○

受講者に対する要望	<p>AIという言葉に対して、理系の専門分野という印象を持つ方もいるかもしれません。しかし、AIは文系・理系を問わず、現代社会のあらゆる領域に関わる重要な技術です。</p> <p>この授業では、人文社会学系の視点からAIを捉え、「人間とは何か」「知能とは何か」といった根源的な問いを考えながら、AIの仕組みや応用について学びます。</p> <p>生成AIなどの最新技術にも触れながら、AI社会における人間の役割や倫理的課題についても考察します。</p> <p>初回授業ではガイダンスに加えて本題にも入りますので、受講を希望する方は必ず第1回から出席してください。</p>	
-----------	---	--

教科書	特定の教科書は指定しません。各講義回に応じて、必要な資料を配布します。配布資料をもとに授業を進めますので、必ず事前に目を通しておいてください。	
参考書	授業内容に関連する参考書や文献については、適宜授業中に紹介します。興味を持った分野については、自主的に調べることで理解を深めることができます。	

## 講義基本情報 1

科目授業名	データサイエンス入門A				授業コード	11750510	
担当教員	伊豆田 義人						
科目	エッセンシャルズ科目(125) ／全学共通科目(124以前)	必修・選択	選択科目	単位数	2.00単位	年度・学期	2025年度春学期
ナンバリング	ATS-100			授業形態	対面		
カリキュラム上の位置付け(資格)							

## 講義基本情報 2

実務経験のある教員の有無・経験内容	-						
実務経験に関連する授業内容							

## 講義概要

(1) 学びの意義と目標	<p>現代社会は、膨大なデータを活用して課題の解決や利便性の向上を図る「データ駆動型社会」へと進化しています。このような社会では、個人の生活から企業活動、行政施策に至るまで、あらゆる場面でデータが意思決定の根拠として用いられています。</p> <p>本授業では、このような社会の変化を理解し、データの整理・分析・可視化・活用といった一連のプロセスを体験することで、データに基づいた思考力と判断力を養うことを目指します。特に、人文社会学系の学生が社会の中でデータを活用できるようになるための基礎的な知識とスキルの習得を目的としています。</p>
(2) 内容	<p>本授業は、座学と演習を組み合わせた構成で進めます。座学では、データ駆動型社会の背景や意義、データサイエンスの基本概念、仮説検証の考え方、データの活用事例などについて学びます。また、統計的な基礎知識やデータの種類・分布・可視化の方法についても解説します。</p> <p>演習では、Microsoft Accessを用いたデータの分析と可視化のほか、データベースの構築・操作、表計算ソフト（Excel）との連携、テーブル作成、クエリの活用、入力フォームやレポートの作成などを通じて、実践的なスキルを身につけます。最終週では、情報セキュリティや法的留意点についても学び、データを安全に扱うための知識を深めます。</p>

## 授業計画

第1回	ガイダンス。現在進行中の社会変化についての理解。データの基本的な概念、データサイエンスとは何か。データサイエンスのサイクル。データの活用領域と、社会で活用されているデータの事例。
第2回	仮説検証から判断支援による新たな価値の創造。データ解析と可視化の利活用事例および適用領域についての理解。
第3回	使用するデータベースソフト（Access）の特徴と機能の確認。課題の作成を通じて、基本的な使い方や注意点、表計算ソフト（Excel）とのデータのやり取りに関するスキルを習得します。
第4回	課題の作成を通じて、データの種類、統計量、データの分布などに関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第5回	課題の作成を通じて、データの取得、集計、分析などの扱い方に関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第6回	課題の作成を通じて、データの可視化、比較、まとめ方などに関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第7回	課題の作成を通じて、データベースの基本的な考え方に関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第8回	課題の作成を通じて、データベースのテーブル作成に関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第9回	課題の作成を通じて、データベースのテーブルと表計算ソフトとの連携に関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第10回	課題の作成を通じて、データベースのリレーションシップおよびクエリに関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第11回	課題の作成を通じて、データベースのクエリにおけるさまざまな機能に関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第12回	課題の作成を通じて、データベースのクエリの利活用に関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第13回	課題の作成を通じて、データベースの入力フォームに関する基礎的な知識とスキルを習得します。

第14回	課題の作成を通じて、データベースのレポートに関する基礎的な知識とスキルを習得します。
第15回	まとめ、情報セキュリティ、情報漏洩、関連する法律、データを守るための留意事項についての理解。

学びのキーワード

(1)	データ駆動型社会とその変遷
(2)	科学的根拠としてのデータの役割
(3)	統計的な基礎知識とデータの可視化
(4)	データベースの構築と活用 (Access, Excel)
(5)	情報セキュリティと法的留意点

評価方法

評価項目	評価割合	備考
授業内課題・ノートの提出など	40%	授業課題や発表、期末におけるノートの提出など。
期末課題	35%	期末試験に代わるもの。
平常点	25%	授業内のディスカッション、意欲、授業態度、取り組み方などへの取り組み。
評価方法注意点	評価は、平常点（授業への参加態度、意欲、発言など）および、ノートと課題提出などによって行います。 平常点には、授業中の私語、無断欠席・遅刻・早退、授業と関係のない電子機器の使用、注意散漫な態度なども含まれます。これらは評価に影響しますので、積極的かつ誠実な姿勢で授業に臨んでください。	
フィードバックの方法	質問や疑問、理解できなかった点があったら、授業内や授業終了後、オフィスアワー、そして部屋にいるときには対面に対応します。また、メールやチームズでも対応します。	

準備学修【予習】 (90-120分)	事前に配布された資料を読み、授業で扱うテーマや用語について予習しておいてください。特に、AccessやExcelの基本操作に不安がある場合は、簡単な操作方法を確認しておくことスムーズに授業に参加できます。
準備学修【復習】 (90-120分)	授業後は、授業ノートを整理し、演習で扱った操作手順や考え方を復習してください。課題に取り組む際には、授業内容を振り返りながら、自分の理解を深めるようにしましょう。

アクティブラーニング

PBL (課題解決型学習)	テーマに沿ったプロジェクト又は特定の問題が提示され、それらの問題解決を通して、様々な知識・スキルを学ぶ授業。	○
反転授業	知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業。	-
ディスカッション、ディベート	授業中に特定のテーマについて対話又はディスカッションを通して理解を深める授業。ディベートとは特定のルール下で議論の勝敗を競うものを指す。	○
グループワーク	少人数のグループに分かれ、与えられた課題に協同で取り組む授業。2人組によるペアワークも含む。	○
プレゼンテーション	受講者がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の受講者の前で自ら発表を行わせる授業。	○
実習、実技、実験、フィールドワーク	実習や実技等の体験的な学習や、学内外のフィールドに赴き、調査や観察を通して情報収集を行わせる授業。	-
その他		

ICT活用

双方向型授業	クリッカー、タブレット端末、UNIPA等を活用した双方向のコミュニケーションが存在する授業。	○
自主学習支援	e-ラーニングなどを活用した受講者の自主学習状況が把握できる授業外の学習支援。	○

受講者に対する要望	<p>現代社会は、スマートフォンやモバイル端末の普及により、誰もが「いつでも」「どこでも」情報を活用できる環境にあります。このような情報社会は、さらに進化して「データ駆動型社会」へと移行しつつあります。</p> <p>この授業では、そのような社会の中で必要とされるデータ活用の基礎的な知識とスキルを身につけることを目指します。受講者の皆さんには、積極的に授業に参加し、演習にも真剣に取り組んでいただきたいと思います。</p>
-----------	--

なお、第1回目の授業ではガイダンスに加えて本題にも入りますので、必ず出席してください。

教科書	特に指定はしません。各講義回に応じて、必要な資料を配布します。資料には、講義内容の要点や演習課題の手順が含まれますので、必ず持参し、授業中に参照できるようにしてください。
参考書	授業内容に関連する参考書やウェブ資料については、適宜授業中に紹介します。紹介された資料は、理解を深めるための補助教材として活用してください。必要に応じて、図書館やインターネットで該当資料を閲覧・参照することを推奨します。

## 政治経済学部政治経済学科カリキュラム

学科目群は聖学院エッセンシャルズ科目群（聖学院コア科目、技能コア科目、シティズンシップ科目、リベラルアーツ科目）、専門科目群からなっている。

卒業するためには表1のように単位を修得しなければならない。表1の単位数は卒業に必要な最低単位数である。

表1 政治経済学科

学 科 目 群	卒業最低必要単位数						備 考	
	必修	選択必修	選択	小計	自由選択	合計		
聖学院エッセンシャルズ科目群	聖学院コア科目	キリスト教理解	8			8	*1留学生の語学科目の履修方法はP.147～152参照  *2 8単位選択必修	
	技能コア科目	英語*1	4	}	4			14
		第二外国語						
		ICT	2					
		セルフケア/ヘルスケア						
	シティズンシップ科目	キャリアデザイン	4					
		コミュニティスタディ						
		グローバルスタディ						
	リベラルアーツ科目	人間理解		}	8*2			8
		社会理解						
自然理解								
専門科目群	共通専門科目	9						
	政治学系							
	法学系							
	経済学系							
	経営学系							
	社会学系			30	45			
	情報学系							
	その他							
	公務員							
	社会教育主事							
	演習科目	6						
合 計	33	12	30	75	49	124		

表3-1 技能コア科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (無修)	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>ICT</b>								
FYE-100	情報基礎	2		○	○	1		
THI-100	情報学A		2	○		1~		
THI-100	情報学B		2		○	1~		
STS-100	データサイエンス入門A		2	○		1~		
STS-100	データサイエンス入門B		2		○	1~		
THI-100	プログラミング基礎A		2	○		1~		
THI-100	プログラミング基礎B		2		○	1~		
<b>セルフケア/ヘルスケア</b>								
AHS-100	健康・体力づくり実習A		1	○		1~	演習	
AHS-100	健康・体力づくり実習B		1		○	1~	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習A		1	○		1~	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習B		1		○	1~	演習	

表4 シティズンシップ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (無修)	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>キャリアデザイン</b>								
CAE-100	時事問題演習	1		○		1	演習	
CAE-100	図表理解	1			○	1	演習	
CAE-100	キャンパスライフスキルズ		2	○	○	1~	演習	
CAE-100	キャリアデザインA	1		○		2	演習	
CAE-100	キャリアデザインB	1			○	2	演習	
CAE-200	ビジネス・ライティング		1	○		2~	演習	
CAE-200	ビジネス・コミュニケーション		1		○	2~	演習	
CAE-200	ビジネス・プレゼンテーション		1	○		2~	演習	
CAE-300	業界・企業研究		1	○	○	3~	演習	
CAE-100	インターンシップ(企業研修型)		2	集中	集中	1~	実習	
CAE-100	インターンシップ(PBL型)		2	集中	集中	1~	実習	
CAE-100	海外インターンシップA		4			1~		
CAE-100	海外インターンシップB		4			1~		
CAE-100	海外インターンシップC		2			1~		
CAE-100	海外インターンシップD		1			1~		
CAE-300	キャリア・ディベロップメント		1	○	○	1~		※認定用科目
<b>コミュニティスタディ</b>								
TOS-100	地元学		2	○		1~		
TOS-100	埼玉学		2	○		1~		
TOS-100	地域学		2	○		1~		
PUL-100	日本国憲法		2	○	○	1~		
FYE-100	グローバルシティズンシップ論		2		○	1		
SWS-200	コミュニティサービスラーニングI		2	○		2~		
SWS-200	コミュニティサービスラーニングII		2		集中	2~		
SWS-100	ボランティア体験の言語化技法と実践		2	集中		1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップA		4			1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップB		2			1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップC		1			1~		
SWS-100	地域活動実習A		4			1~	実習	
SWS-100	地域活動実習B		2			1~	実習	
SWS-100	地域活動実習C		1			1~	実習	
<b>グローバルスタディ</b>								
STA-100	オーストラリア文化演習		4	集中		1~	演習	
STA-100	カナダ文化演習		4		集中	1~	演習	
STA-100	韓国文化演習		4		集中	1~	演習	
STA-100	海外文化演習		4	集中		1~	演習	

**表5 リベラルアーツ科目**

科目ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象学年	授業形態 講義 実習	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>人間理解</b>								
PHE-100	哲学		4	◎	◎	1～		
LIE-100	欧米文学		4	◎	◎	1～		
LIN-100	言語学		4	◎	◎	1～		
JLT-100	文学		4	◎	◎	1～		
CUA-100	文化学		4	◎		1～		
CHS-100	絵本文化		4		◎	1～		
PSY-100	心理学		4	◎	◎	1～		
PSY-100	適応の心理		4	◎	◎	1～		
HEA-100	西洋史		4	◎	◎	1～		
HAA-100	東洋史		4		◎	1～		
JPH-100	日本史		4	◎		1～		
CST-100	異文化間コミュニケーション		4		◎	1～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教思想史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教思想史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と音楽A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と音楽B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教音楽史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教音楽史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と美術A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と美術B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教カウンセリング論		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と心のケア		2	○		2～		
<b>社会理解</b>								
SWS-100	障害児（者）の理解と社会		4	◎		1～		
EDP-100	子どもの諸問題と教育相談		4		◎	1～		
RSW-100	福祉環境学		4	◎		1～		
SWS-100	社会福祉概論		4	◎		1～		
SOC-100	日本社会		4	◎	◎	1～		※留学生用
CHR-200	キリスト教と国際社会A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と国際社会B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と日本社会A		2	○		1～		
CHR-200	キリスト教と日本社会B		2		○	1～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際B		2		○	2～		
<b>自然理解</b>								
CUA-100	民俗環境論		4		◎	1～		
CAE-100	職業人生と健康		4	◎		1～		
MAT-100	教養としての数学		4		◎	1～		
MSO-100	生命倫理学		4	◎		1～		
RSW-100	リハビリテーション入門		4		◎	1～		
STS -100	統計学		4		◎	1～		
THI -100	AIと情報リテラシー		2	○	○	1～	PAJCS	
CHR-200	キリスト教と自然科学A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と自然科学B		2		○	2～		

## 人文学部欧米文化学科カリキュラム

学科目群は聖学院エッセンシャルズ科目群（聖学院コア科目、技能コア科目、シティズンシップ科目、リベラルアーツ科目）、専門科目群からなっている。

卒業するためには表1のように単位を修得しなければならない。表1の単位数は卒業に必要な最低単位数である。

表 欧米文化学科

学 科 目 群		卒業最低必要単位数					備 考	
		必修	選択必修	選択	小計	自由選択		合計
聖学院エッセンシャルズ科目群	聖学院コア科目	キリスト教理解	8			8		*1留学生の語学科目の履修方法はP.147～152参照 *2英語科目（必修を除く）、第二外国語より6単位選択必修※ECA（「留学生のための英語」を除く）かつ、ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、スペイン語Ⅰ、イタリア語Ⅰのいずれか1外国語2単位選択必修 *3 8単位選択必修
	技能コア科目	英語	8*1	} 8*2				
		第二外国語						
		ICT	2					
	シティズンシップ	セルフケア/ヘルスクア						
		キャリアデザイン	1	1				
		コミュニティストディ						
	リベラルアーツ	グローバルスタディ						
		人間理解		} 8*3				
		社会理解						
自然理解			8		41	124		
専門科目群	基礎学科目群	3						
	地域文化科目群		4					
	思想科目群							
	歴史科目群							
	文学科目群							
	芸術科目群			36	47			
	コミュニケーション科目群							
	言語・英語教育科目群							
	上級科目							
	関連科目							
演習科目	4							
合 計		26	21	36	83	41	124	

表3-1 技能コア科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (講義/演習)	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>ICT</b>								
FYE-100	情報基礎	2		○	○	1		
THI -100	情報学A		2	○		1~		
THI -100	情報学B		2		○	1~		
STS-100	データサイエンス入門A		2	○		1~		
STS-100	データサイエンス入門B		2		○	1~		
THI -100	プログラミング基礎A		2	○		1~		
THI -100	プログラミング基礎B		2		○	1~		
<b>セルフケア/ヘルスケア</b>								
AHS-100	健康・体づくり実習A		1	○		1~	演習	高一種免許・中一種免許取得者は2科目2単位以上選択必修。
AHS-100	健康・体づくり実習B		1		○	1~	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習A		1	○		1~	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習B		1		○	1~	演習	
AHS-100	体育（講義）		1		○	1~	演習	

表4 シティズンシップ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (講義/演習)	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>キャリアデザイン</b>								
CAE-100	時事問題演習	1		○		1	演習	1科目1単位選択必修
CAE-100	図表理解	1			○	1	演習	
CAE-100	キャンパスライフスキルズ		2	○	○	1~	演習	
CAE-200	キャリアデザイン	1		○		2	演習	
CAE-200	ビジネス・ライティング		1	○		2~	演習	
CAE-200	ビジネス・コミュニケーション		1		○	2~	演習	
CAE-200	ビジネス・プレゼンテーション		1	○		2~	演習	
CAE-300	業界・企業研究		1	○	○	3~	演習	
CAE-100	インターンシップ（企業研修型）		2	集中	集中	1~	実習	
CAE-100	インターンシップ（PBL型）		2	集中	集中	1~	実習	
CAE-300	キャリア・ディベロップメント		1	○	○	1~		※認定用科目
<b>コミュニティスタディ</b>								
TOS-100	地元学		2	○		1~		高一種・中一種免許取得者は必修
TOS-100	埼玉学		2	○		1~		
TOS-100	地域学		2	○		1~		
PUL-100	日本国憲法		2	○	○	1~		
FYE-100	グローバルシティズンシップ論		2		○	1		
SWS-200	コミュニティサービスラーニングⅠ		2	○		2~		
SWS-200	コミュニティサービスラーニングⅡ		2		集中	2~		
SWS-100	ボランティア体験の言語化技法と実践		2	集中		1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップA		4			1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップB		2			1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップC		1			1~		
SWS-100	地域活動実習A		4			1~	実習	
SWS-100	地域活動実習B		2			1~	実習	
SWS-100	地域活動実習C		1			1~	実習	
<b>グローバルスタディ</b>								
STA-100	オーストラリア文化演習		4	集中		1~	演習	
STA-100	カナダ文化演習		4		集中	1~	演習	
STA-100	韓国文化演習		4		集中	1~	演習	
STA-100	海外文化演習		4	集中		1~	演習	

表5 リベラルアーツ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (無は講)	備考
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>人間理解</b>								
LIN-100	言語学		4	◎	◎	1～		
JLT-100	文学		4	◎	◎	1～		
CUA-100	文化学		4	◎		1～		
CHS-100	絵本文化		4		◎	1～		
PSY-100	心理学		4	◎	◎	1～		
PSY-100	適応の心理		4	◎	◎	1～		
HAA-100	東洋史		4		◎	1～		
JPH-100	日本史		4	◎		1～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教思想史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教思想史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と音楽A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と音楽B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教音楽史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教音楽史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と美術A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と美術B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教カウンセリング論		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と心のケア		2	○		2～		
<b>社会理解</b>								
POL-100	政治学		4	◎	◎	1～		
ECO-100	経済学		4	◎	◎	1～		
FUL-100	法学		4	◎	◎	1～		
SOC-100	社会学		4		◎	1～		
INR-100	平和学		4	◎		1～		
SWS-100	障害児（者）の理解と社会		4	◎		1～		
EDP-100	子どもの諸問題と教育相談		4		◎	1～		
RSW-100	福祉環境学		4	◎		1～		
SWS-100	社会福祉概論		4	◎		1～		
SOC-100	情報と社会		4		◎	1～		
SOC-100	日本社会		4	◎	◎	1～		※留学生用
CHR-200	キリスト教と国際社会A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と国際社会B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と日本社会A		2	○		1～		
CHR-200	キリスト教と日本社会B		2		○	1～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際B		2		○	2～		
<b>自然理解</b>								
EAE-100	環境学		4	◎		1～		
CUA-100	民俗環境論		4		◎	1～		
CAE-100	職業人生と健康		4	◎		1～		
MAT-100	教養としての数学		4		◎	1～		
MSO-100	生命倫理学		4	◎		1～		
RSW-100	リハビリテーション入門		4		◎	1～		
STS -100	統計学		4		◎	1～		
THI -100	情報リテラシー		4	◎		1～		
THI -100	AIと情報リテラシー		2	○	○	1～	PAJCS	
CHR-200	キリスト教と自然科学A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と自然科学B		2		○	2～		

## 人文学部日本文化学科カリキュラム

125J

学科目群は聖学院エッセンシャルズ科目群（聖学院コア科目、技能コア科目、シティズンシップ科目、リベラルアーツ科目）、専門科目群からなっている。

卒業するためには表1のように単位を修得しなければならない。表1の単位数はそれぞれ卒業に必要な最低単位数である。

表1-1 日本文化学科

学 科 目 群	卒 業 最 低 必 要 単 位 数						備 考
	必修	選択必修	選択	小計	自由選択	合計	
聖学院エッセンシャルズ科目群	聖学院コア科目 キリスト教理解	8			8		124
	技能コア科目 英語	4	}	4	11	38	
	第二外国語						
	ICT	2					
	セルフケア/ヘルスケア						
	シティズンシップ キャリアデザイン	1					
	コミュニティスタディ						
	グローバルスタディ						
	リベラルアーツ 人間理解		}	8	8		
	社会理解						
自然理解							
専門科目群	共通専門科目	3			59		
	学科基礎科目		10				
	文化論・比較文化系						
	文学・語学系						
	歴史・思想系			41			
	応用科目						
	関連科目						
	演習科目	4					
修了科目		1					
教職関連科目						教職関連科目は一部卒業要件の外	
合 計	22	23	41	86	38	124	

表1-2 日本文化学科 留学生

学 科 目 群		卒業最低必要単位数						備考	
		必修	選択必修	選択	小計	自由選択	合計		
聖学院 エッセンシャルズ 科目群	聖院科目	キリスト教理解	8*1			8		*1日本語通常課程の際に履修する	
	技能コア科目	日本語	10*2			17	42	124	*2入学時に、日本語通常前期と判定された留学生の場合 語学科目の履修方法はP.147～152参照 *3日本語通常課程の際に履修する
		英語		4					
		第二外国語							
		ICT	2*3						
		セルフケア/ヘルスケア							
	キャリアデザイン コミュニティスタディ グローバルスタディ	キャリアデザイン	1						
		コミュニティスタディ							
		グローバルスタディ							
	リベラル アート科目	人間理解		8		8	42	124	*4「基礎教育入門（書き方）」、「文章表現法」は、日本語通常課程の際に履修する
		社会理解							
		自然理解							
	専門科目群	共通専門科目	3*4			49	31		
学科基礎科目			10						
文化論・比較文化系									
文学・語学系									
歴史思想系									
応用科目									
関連科目									
演習科目		4							
修了科目		1							
教 職 関 連 科 目								教職関連科目は一部卒業要件の外	
合 計		28	23	31	82	42	124		

表3-1 技能コア科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (講義/演習)	備考
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>ICT</b>								
FYE-100	情報基礎	2		○	○	1		
THI -100	情報学A		2	○		1~		
THI -100	情報学B		2		○	1~		
STS-100	データサイエンス入門A		2	○		1~		
STS-100	データサイエンス入門B		2		○	1~		
THI -100	プログラミング基礎A		2	○		1~		
THI -100	プログラミング基礎B		2		○	1~		
<b>セルフケア/ヘルスケア</b>								
AHS-100	健康・体力づくり実習A		1	○		1~	演習	高一種免許・中一種免許取得者は2科目2単位以上選択必修。
AHS-100	健康・体力づくり実習B		1		○	1~	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習A		1	○		1~	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習B		1		○	1~	演習	
AHS-100	体育（講義）		1		○	1~	演習	

表4 シティズンシップ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (講義/演習)	備考
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>キャリアデザイン</b>								
CAE-100	時事問題演習		1	○		1	演習	*認定用科目
CAE-100	図表理解		1		○	1	演習	
CAE-100	キャンパスライフスキルズ		2	○	○	1~	演習	
CAE-200	キャリアデザイン	1		○		2	演習	
CAE-200	ビジネス・ライティング		1	○		2~	演習	
CAE-200	ビジネス・コミュニケーション		1		○	2~	演習	
CAE-200	ビジネス・プレゼンテーション		1	○		2~	演習	
CAE-300	業界・企業研究		1	○	○	3~	演習	
CAE-100	インターンシップ（企業研修型）		2	集中	集中	1~	実習	
CAE-100	インターンシップ（PBL型）		2	集中	集中	1~	実習	
CAE-100	海外インターンシップA		4			1~		
CAE-100	海外インターンシップB		4			1~		
CAE-100	海外インターンシップC		2			1~		
CAE-100	海外インターンシップD		1			1~		
CAE-300	キャリア・ディベロップメント		1	○	○	1~		
<b>コミュニティスタディ</b>								
TOS-100	地元学		2		○	1~		高一種・中一種免許取得者は必修
TOS-100	埼玉学		2	○		1~		
TOS-100	地域学		2	○		1~		
PUL-100	日本国憲法		2	○	○	1~		
FYE-100	グローバルシティズンシップ論		2		○	1		
SWS-200	コミュニティサービスマーケティングⅠ		2	○		2~		
SWS-200	コミュニティサービスマーケティングⅡ		2		集中	2~		
SWS-100	ボランティア体験の言語化技法と実践		2	集中		1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップA		4			1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップB		2			1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップC		1			1~		
SWS-100	地域活動実習A		4			1~	実習	
SWS-100	地域活動実習B		2			1~	実習	
SWS-100	地域活動実習C		1			1~	実習	
<b>海外文化演習</b>								
STA-100	オーストラリア文化演習		4	集中		1~	演習	
STA-100	カナダ文化演習		4		集中	1~	演習	
STA-100	韓国文化演習		4		集中	1~	演習	
STA-100	海外文化演習		4	集中		1~	演習	

表5 リベラルアーツ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (無は講)	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>人間理解</b>								
PHE-100	哲学		4	◎	◎	1～		
LIE-100	欧米文学		4	◎	◎	1～		
CHS-100	絵本文化		4		◎	1～		
PSY-100	心理学		4	◎	◎	1～		
PSY-100	適応の心理		4	◎	◎	1～		
HEA-100	西洋史		4	◎	◎	1～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教思想史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教思想史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と音楽A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と音楽B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教音楽史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教音楽史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と美術A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と美術B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教カウンセリング論		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と心のケア		2	○		2～		
<b>社会理解</b>								
POL-100	政治学		4	◎	◎	1～		
ECO-100	経済学		4	◎	◎	1～		
FUL-100	法学		4	◎	◎	1～		
SOC-100	社会学		4		◎	1～		
INR-100	平和学		4	◎		1～		
SWS-100	障害児(者)の理解と社会		4	◎		1～		
EDP-100	子どもの諸問題と教育相談		4		◎	1～		
RSW-100	福祉環境学		4	◎		1～		
SWS-100	社会福祉概論		4	◎		1～		
SOC-100	情報と社会		4		◎	1～		
SOC-100	日本社会		4	◎	◎	1～		※留学生用
CHR-200	キリスト教と国際社会A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と国際社会B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と日本社会A		2	○		1～		
CHR-200	キリスト教と日本社会B		2		○	1～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際B		2		○	2～		
<b>自然理解</b>								
EAE-100	環境学		4	◎		1～		
CUA-100	民俗環境論		4		◎	1～		
CAE-100	職業人生と健康		4	◎		1～		
MAT-100	教養としての数学		4		◎	1～		
MSO-100	生命倫理学		4	◎		1～		
RSW-100	リハビリテーション入門		4		◎	1～		
STS -100	統計学		4		◎	1～		
THI -100	AIと情報リテラシー		2	○	○	1～		
CHR-200	キリスト教と自然科学A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と自然科学B		2		○	2～		

## 人文学部子ども教育学科カリキュラム

125C

子ども教育学科は、幼稚園教諭および小学校教諭の養成を主目的として開設されている学科である。そのため、教員免許状取得に関連する科目を修得することを原則とする。

学科目群は聖学院エッセンシャルズ科目群（聖学院コア科目、技能コア科目、シティズンシップ科目、リベラルアーツ科目）、専門科目群からなっている。

卒業するためには表1のように単位を修得しなければならない。表1にある単位数は卒業に必要な最低単位数である。

表1 子ども教育学科

学 科 目 群	卒 業 最 低 必 要 単 位 数					備 考
	必修	選択必修	選択	小計	自由選択	
聖学院エッセンシャルズ科目群	聖学院コア科目 キリスト教理解	8			8	*1 留学生の語学科目の履修方法はP.147～152参照  *2 領域8単位以上選択必修
	技能コア科目 英語*1	4			6	
	第二外国語					
	ICT	2				
	セルフケア/ヘルスケア					
	シティズンシップ科目 キャリアデザイン				8	
	コミュニティスタディ					
	グローバルスタディ					
	リベラルアーツ科目 人間理解		8*2		8	
	社会理解					
自然理解						
専門科目群	共通基本科目 共通基本科目	2			45	72
	児童文化系統	2				
	心理学系統	6				
	教育学系統	4				
	福祉・教育関連系統					
	教育関連科目	9				
	応用科目					
	演習科目	4				
合 計	41	8	45	94	30	124

表3-1 技能コア科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業態 別記載	備考
		必修	選択	春学期	秋学期			
ICT								
FYE-100	情報基礎	2		○	○	1		
THI-100	情報学A		2	○		1		
THI-100	情報学B		2		○	1		
STS-100	データサイエンス入門A		2	○		1		
STS-100	データサイエンス入門B		2		○	1		
THI-100	プログラミング基礎A		2	○		1		
THI-100	プログラミング基礎B		2		○	1		
セルフケア／ヘルスケア								
AHS-100	健康・体力づくり実習A		1	○		1	演習	幼一種免許・小一種免許・保育士取得希望者は2科目2単位以上選択必修。ただし保育士資格取得希望者は必ず体育（講義）を含むこと。
AHS-100	健康・体力づくり実習B		1		○	1	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習A		1	○		1	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習B		1		○	1	演習	
AHS-100	体育（講義）		1		○	1	演習	

表4 シティズンシップ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業態 別記載	備考
		必修	選択	春学期	秋学期			
キャリアデザイン								
CAE-100	時事問題演習		1	○		1	演習	※認定用科目
CAE-100	図表理解		1		○	1	演習	
CAE-100	キャンパスライフスキルズ		2	○	○	1	演習	
CAE-100	キャリアデザインA		1	○		2	演習	
CAE-100	キャリアデザインB		1		○	2	演習	
CAE-200	ビジネス・ライティング		1	○		2	演習	
CAE-200	ビジネス・コミュニケーション		1		○	2	演習	
CAE-200	ビジネス・プレゼンテーション		1	○		2	演習	
CAE-300	業界・企業研究		1	○	○	3	演習	
CAE-100	インターンシップ（企業研修型）		2	集中	集中	1	実習	
CAE-100	インターンシップ（PBL型）		2	集中	集中	1	実習	
CAE-100	海外インターンシップA		4			1		
CAE-100	海外インターンシップB		4			1		
CAE-100	海外インターンシップC		2			1		
CAE-100	海外インターンシップD		1			1		
CAE-300	キャリア・ディベロップメント		1	○	○	1		
コミュニティスタディ								
TOS-100	地元学		2		○	1		幼一種・小一種免許取得希望者は必修
TOS-100	埼玉学		2	○		1		
TOS-100	地域学		2	○		1		
PUL-100	日本国憲法		2	○	○	1		
FYE-100	グローバルシティズンシップ論		2		○	1		
SWS-200	コミュニティサービスマーケティングⅠ		2	○		2		
SWS-200	コミュニティサービスマーケティングⅡ		2		集中	2		
SWS-100	ボランティア体験の言語化技法と実践		2	集中		1		
SWS-100	被災地支援・インターンシップA		4			1		
SWS-100	被災地支援・インターンシップB		2			1		
SWS-100	被災地支援・インターンシップC		1			1		
SWS-100	地域活動実習A		4			1	実習	
SWS-100	地域活動実習B		2			1	実習	
SWS-100	地域活動実習C		1			1	実習	
グローバルスタディ								
STA-100	オーストラリア文化演習		4	集中		1	演習	
STA-100	カナダ文化演習		4		集中	1	演習	
STA-100	韓国文化演習		4		集中	1	演習	
STA-100	海外文化演習		4	集中		1	演習	

表5 リベラルアーツ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 講義/演習	備考
		必修	選択	春学期	秋学期			
人間理解								
PHE-100	哲学		4	○	○	1～		
LIE-100	欧米文学		4	○	○	1～		
LIN-100	言語学		4	○	○	1～		
JLT-100	文学		4	○	○	1～		
CUA-100	文化学		4	○		1～		
PSY-100	適応の心理		4	○	○	1～		
HEA-100	西洋史		4	○	○	1～		
JPH-100	日本史		4	○		1～		
CST-100	異文化間コミュニケーション		4		○	1～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教思想史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教思想史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と音楽A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と音楽B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教音楽史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教音楽史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と美術A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と美術B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教カウンセリング論		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と心のケア		2	○		2～		
社会理解								
POL-100	政治学		4	○	○	1～		
ECO-100	経済学		4	○	○	1～		
FUL-100	法学		4	○	○	1～		
SOC-100	社会学		4		○	1～		
INR-100	平和学		4	○		1～		
SWS-100	障害児(者)の理解と社会		4	○		1～		
RSW-100	福祉環境学		4	○		1～		
SWS-100	社会福祉概論		4	○		1～		
SOC-100	情報と社会		4		○	1～		
SOC-100	日本社会		4	○	○	1～		※留学生用
CHR-200	キリスト教と国際社会A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と国際社会B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と日本社会A		2	○		1～		
CHR-200	キリスト教と日本社会B		2		○	1～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際B		2		○	2～		
自然理解								
EAE-100	環境学		4	○		1～		
CUA-100	民俗環境論		4		○	1～		
CAE-100	職業人生と健康		4	○		1～		
MAT-100	教養としての数学		4		○	1～		
MSO-100	生命倫理学		4	○		1～		
RSW-100	リハビリテーション入門		4		○	1～		
STS-100	統計学		4		○	1～		
THI-100	AIと情報リテラシー		2	○	○	1～	PAJCS	
CHR-200	キリスト教と自然科学A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と自然科学B		2		○	2～		

## 心理福祉学部心理福祉学科のカリキュラム

学科目群は聖学院エッセンシャルズ科目群（聖学院コア科目、技能コア科目、シティズンシップ科目、リベラルアーツ科目）、専門科目群からなっている。

卒業するためには表1のように単位を修得しなければならない。表1の単位数は卒業に必要な最低単位数である。

表1 心理福祉学科

学 科 目 群	卒 業 最 低 必 要 単 位 数						備 考	
	必修	選択必修	選択	小計	自由選択	合計		
聖学院コア科目 聖学院エッセンシャルズ科目群 シティズンシップ リベラルアーツ	キリスト教理解	8			8	38	124	*1 語学科目の履修方法は P.147～152参照  *2 8単位選択必修
	英語*1	4			4			
	第二外国語							
	ICT							
	セルフケア/ヘルスケア							
	キャリアデザイン							
	コミュニティスタディ							
	グローバルスタディ							
	人間理解		8*2		8			
	社会理解							
自然理解								
専門科目群	共通基礎科目	6		24	66	*3 心理関連科目・福祉関連科目のいずれかより 20単位以上選択必修		
	心理関連科目	6	20*3					
	福祉関連科目	6						
	公認心理師							
	社会福祉士							
	精神保健福祉士							
	応用科目							
	演習科目	4						
合 計	34	28	24	86	38	124		

表3-1 技能コア科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (無)講義	備考
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>ICT</b>								
THI-100	情報学A		2	○		1~		
THI-100	情報学B		2		○	1~		
STA-100	データサイエンス入門A		2	○		1~		
STA-100	データサイエンス入門B		2		○	1~		
THI-100	プログラミング基礎A		2	○		1~		
THI-100	プログラミング基礎B		2		○	1~		
<b>セルフケア／ヘルスケア</b>								
AHS-100	健康・体力づくり実習A		1	○		1~	演習	
AHS-100	健康・体力づくり実習B		1		○	1~	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習A		1	○		1~	演習	
AHS-100	生涯スポーツ実習B		1		○	1~	演習	

表4 シティズンシップ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (無)講義	備考
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>キャリアデザイン</b>								
CAE-100	時事問題演習		1	○		1	演習	
CAE-100	図表理解		1		○	1	演習	
CAE-100	キャンパスライフスキルズ		2	○	○	1~	演習	
CAE-100	キャリアデザインA		1	○		2	演習	
CAE-100	キャリアデザインB		1		○	2	演習	
CAE-200	ビジネス・ライティング		1	○		2~	演習	
CAE-200	ビジネス・コミュニケーション		1		○	2~	演習	
CAE-200	ビジネス・プレゼンテーション		1	○		2~	演習	
CAE-300	業界・企業研究		1	○	○	3~	演習	
CAE-100	インターンシップ(企業研修型)		2	集中	集中	1~	実習	
CAE-100	インターンシップ(PBL型)		2	集中	集中	1~	実習	
CAE-100	海外インターンシップA		4			1~		
CAE-100	海外インターンシップB		4			1~		
CAE-100	海外インターンシップC		2			1~		
CAE-100	海外インターンシップD		1			1~		
CAE-300	キャリア・ディベロップメント		1	○	○	1~		※認定用科目
<b>コミュニティスタディ</b>								
TOS-100	地元学		2	○		1~		
TOS-100	埼玉学		2	○		1~		
TOS-100	地域学		2	○		1~		
PUL-100	日本国憲法		2	○	○	1~		
FYE-100	グローバルシティズンシップ論		2		○	1		
SWS-200	コミュニティサービスラーニングI		2	○		2~		
SWS-200	コミュニティサービスラーニングII		2		集中	2~		
SWS-100	ボランティア体験の言語化技法と実践		2	集中		1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップA		4			1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップB		2			1~		
SWS-100	被災地支援・インターンシップC		1			1~		
SWS-100	地域活動実習A		4			1~	実習	
SWS-100	地域活動実習B		2			1~	実習	
SWS-100	地域活動実習C		1			1~	実習	
<b>グローバルスタディ</b>								
STA-100	オーストラリア文化演習		4	集中		1~	演習	
STA-100	カナダ文化演習		4		集中	1~	演習	
STA-100	韓国文化演習		4		集中	1~	演習	
STA-100	海外文化演習		4	集中		1~	演習	

表5 リベラルアーツ科目

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 (無)は講義	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期			
<b>人間理解</b>								
PHE-100	哲学		4	◎	◎	1～		
LIE-100	欧米文学		4	◎	◎	1～		
LIN-100	言語学		4	◎	◎	1～		
JLT-100	文学		4	◎	◎	1～		
CUA-100	文化学		4	◎		1～		
CHS-100	絵本文化		4		◎	1～		
PSY-100	適応の心理		4	◎	◎	1～		
HEA-100	西洋史		4	◎	◎	1～		
HAA-100	東洋史		4		◎	1～		
JPH-100	日本史		4	◎		1～		
CST-100	異文化間コミュニケーション		4		◎	1～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と歴史形成B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教思想史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教思想史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教とアジア文化B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と音楽A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と音楽B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教音楽史A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教音楽史B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と美術A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と美術B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教カウンセリング論		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と心のケア		2	○		2～		
<b>社会理解</b>								
POL-100	政治学		4	◎	◎	1～		
ECO-100	経済学		4	◎	◎	1～		
FUL-100	法学		4	◎	◎	1～		
INR-100	平和学		4	◎		1～		
EDP-100	子どもの諸問題と教育相談		4		◎	1～		
SOC-100	情報と社会		4		◎	1～		
SOC-100	日本社会		4	◎	◎	1～		※留学生用
CHR-200	キリスト教と国際社会A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と国際社会B		2		○	2～		
CHR-200	キリスト教と日本社会A		2	○		1～		
CHR-200	キリスト教と日本社会B		2		○	1～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と福祉活動の実際B		2		○	2～		
<b>自然理解</b>								
EAE-100	環境学		4	◎		1～		
CUA-100	民俗環境論		4		◎	1～		
CAE-100	職業人生と健康		4	◎		1～		
MAT-100	教養としての数学		4		◎	1～		
MSO-100	生命倫理学		4	◎		1～		
RSW-100	リハビリテーション入門		4		◎	1～		
STS-100	統計学		4		◎	1～		
THI-100	AIと情報リテラシー		2	○	○	1～	PAJCS	
CHR-200	キリスト教と自然科学A		2	○		2～		
CHR-200	キリスト教と自然科学B		2		○	2～		

# 聖学院大学 基礎総合教育部会内規

## (部会の目的)

第1条 聖学院大学における全学共通教育課程（以下「本課程」という。）並びに本学学則別表において採用されている各種資格科目課程の編成、教員配置等を円滑に行うことを目的として、基礎総合教育部会（以下「部会」という。）を置く。

## (部会の構成)

第2条 部会の構成は次のとおりとする。

- (1) 学長の指名にかかる基礎総合教育部長（以下「部長」という。）
  - (2) 基礎総合教育部所属の教員
- 2 部会は、部長の推薦により学長が指名した者を出席させることができる。
- 3 学長、大学チャプレン、学部長、学部チャプレン、大学事務局長及び学務部長は必要に応じて出席することができ、教育支援課マネージャーは原則として常時出席する。

## (部会の運営)

第3条 部長は、部会を招集し、その議長となる。

- 2 部会は原則として毎月1回行う。ただし、部長が必要と認めたとき、又は学長が要請したとき、若しくは部員の過半数から開催の要請があったときは、臨時部会を開くことができる。
- 3 部会は部員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席部員の過半数をもって決する。
- 4 部長に事故があるとき又は欠けたときは、あらかじめ大学教授会において指名された者が、その職務を代理し又はその職務を行う。

## (部会の職務)

第4条 部会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 本課程の編成に関する事項
- (2) 本課程担当教員の配置に関する事
- (3) 本課程に関わる予算案の作成に関する事項
- (4) 前各号に付帯関連する事項

## (課程専門委員会の設置)

第5条 部会は課程の専門性に鑑み、必要に応じて部会内において課程専門委員会を設置することができる。

- 2 前項の課程専門委員会が設置された場合、その審議事項等については定期的に部会に報告しなければならない。

## (事務担当)

第6条 部会の事務は、教育支援課において行う。

## (改廃手続)

第7条 この内規の改廃は、基礎総合教育部会及び大学教授会の議を経て、学長が決定する。

## 附 則

この規程は、2003年4月1日から施行する。

## 附 則

この規程の一部改正は、2004年4月1日から施行する。

## 附 則

この規程の一部改正は、2004年5月24日から施行し、2004年4月1日から適用する。

附 則

この規程の一部改正は、2006年4月1日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2007年4月1日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2008年4月1日から施行する。

附 則

この内規の一部改正（規程形式の変更、第2条・第6条・第7条関係）は、2023年2月27日から施行し、2022年4月1日から適用する。

附 則

この内規の一部改正（第1条・第2条関係）は、2025年11月12日から施行し、2025年4月1日から適用する。

# 聖学院大学 AI・データサイエンス教育委員会内規

## (委員会の目的)

第1条 「聖学院大学基礎総合教育部会内規」第1条及び第5条に基づき、AI・データサイエンス教育課程の編成、教員配置等並びに学生の数理・データサイエンス・AI教育の指導を円滑に行うことを目的として、聖学院大学基礎総合教育部会（以下「部会」という。）の課程専門委員会として、聖学院大学AI・データサイエンス教育委員会聖学院大学教職委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (委員会の構成)

第2条 委員会の構成は次のとおりとする。

(1) 学長の指名にかかるAI・データサイエンス教育委員長（以下「委員長」という。）

(2) 基礎総合教育部所属教員

(3) その他教授、准教授、助教、講師のうちから学長が大学教授会において指名した者

2 委員長及び委員の任期は1年とする。

3 委員会は、委員長の推薦により、学長が指名した者を出席させることができる。

4 学長、副学長、学長補佐、大学チャプレン、学部長、学部チャプレン、学科長、大学事務局長及び学務部長は必要に応じて出席することができ、教育支援課マネージャーは原則として常時出席する。

## (委員会の運営)

第3条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員会は原則として毎月1回行う。ただし、委員長が必要と認めたとき、又は学長が要請したとき、若しくは委員の過半数から開催の要請があったときは、臨時委員会を開くことができる。

3 委員会は委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。

4 委員長に事故があるとき又は欠けたときは、あらかじめ大学教授会において指名された者が、その職務を代理し又はその職務を行う。

## (委員会の職務)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

(1) AI・データサイエンス教育課程に関する科目及び教科に関する科目の編成に係る事項

(2) AI・データサイエンス教育課程科目担当教員の配置に関する事項

(3) AI・データサイエンス教育課程課程に係わる授業計画の調整（教育機器を含む）に関する事項

(4) AI・データサイエンス教育課程の自己点検・評価に関する事項

(5) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度に関する事項

(6) 委員会に係わる予算案の作成に関する事項

(7) 前各号に付帯関連する事項

## (事務担当)

第5条 委員会の事務は、教育支援課において行う。

## (改廃手続)

第6条 この内規の改廃は、委員会、部会及び大学教授会の議を経て、学長が決定する。

## 附 則

この内規は、2025年11月12日から施行し、2025年4月1日から適用する。

# 聖学院大学 内部質保証推進 I R 委員会内規

(目的)

第1条 次の各号に定める事項を目的として、聖学院大学内部質保証推進 I R 委員会（以下、推進委員会）を設置する。

- (1) 大学学則第2条に定める本学の設立目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況を把握したうえで、教育研究の改善に努めること（以下「自己点検・評価」という。）
- (2) 本学の教育研究の質を確保するため、自己点検・評価を行い、その結果をもとに教育研究活動等の継続的な改善を推進すること（以下「内部質保証」という。）

(自己点検・評価等)

第2条 自己点検・評価は、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。）に係る組織（以下「各組織」という。）の全てにおいて実施する。

- 2 各組織は、客観的な根拠資料又はデータ（入学から卒業後までの学修時間、学修行動、学修成果及び授業評価等の調査・把握を含む。）に基づき、教育研究等の状況を組織的かつ定期的に把握し、改善に努める。
- 3 聖学院大学 I R 室は、各組織と連携し、各組織の階層に応じたデータを提供し、自己点検・評価を支援する。

(内部質保証推進 I R 委員会の取扱事項)

第3条 推進委員会は、次の各号に掲げる事項を審議のうえ、決定する。

- (1) 自己点検・評価に関する次の事項
  - ①自己点検・評価の基本方針及び自己点検・評価事項の策定に係る事項
  - ②自己点検・評価の実施、組織及び体制に係る事項
  - ③各組織の自己点検・評価の総括及び検証に係る事項
  - ④自己点検・評価の報告書作成に係る事項
  - ⑤自己点検・評価の結果の公表に係る事項
  - ⑥学長の指示に基づく特定の項目に関する自己点検・評価の実施に関する事項
  - ⑦外部評価及び第三者評価に係る事項
  - ⑧学校教育法に定める認証評価に係る事項
- (2) 内部質保証に関する次の事項
  - ①内部質保証の方針及び手続の策定に関する事項
  - ②内部質保証のための体制の確保に関する事項
  - ③内部質保証の仕組みの機能向上に関する事項
- (3) その他委員会の目的を達成するために必要な事項

(内部質保証推進 I R 委員会の構成)

第4条 推進委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 大学チャブレン
- (4) 学部長・研究科長
- (5) 学長補佐
- (6) 内部質保証推進実行委員長
- (7) 大学事務局長
- (8) 経営企画部長
- (9) 学務部長

- (10) 学長室長
  - (11) 学長室事務課マネージャー
  - (12) I R企画課マネージャー
  - (13) 教務部長、又は教育課程の編成に関する広い見識を備えている者で学長が指名する者
  - (14) その他学長が指名する者
- 2 推進委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

(内部質保証推進 I R 委員長等)

第 5 条 推進委員会に委員長を置き、学長がこれに当たる。

(内部質保証推進 I R 委員会の運営)

第 6 条 推進委員会は、毎年度 1 回以上、委員長が招集する。

- 2 推進委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって決する。

(学生、卒業生からの意見聴取)

第 7 条 推進委員会は、自己点検・評価の結果について、大学評議会から意見を聴取することができる。

- 2 大学評議会の構成員は、本学の学生（学部及び大学院）及び本学の卒業生とする。
- 3 推進委員会は、前項の意見を求めた場合は自己点検・評価及び内部質保証の推進の際にその意見を反映させる。

(大学評価会議等)

第 8 条 推進委員会は、自己点検・評価の結果について、大学評価会議又は他の有識者に諮問することができる。

- 2 大学評価会議の構成員は、学外の地域社会・産業界その他の有識者とする。

(自己点検・評価の報告・公表及び改善への取組)

第 9 条 学長は、自己点検・評価の報告を受け、結果を公表する。第 7 条、第 8 条に定める意見聴取又は諮問を行った場合は、結果の公表に、その内容を含める。

- 2 学長は、自己点検・評価の報告を受け、推進委員会に改善を要求し、実現を図らなければならない。推進委員会は、学長の要求に従い、各組織に改善を指示する。当該組織の長は推進委員会に改善計画及び改善結果の報告を行う。
- 3 学長は、外部評価及び第三者評価、学校教育法に定める認証評価の受審及び結果を理事会に報告する。

(内部質保証推進実行委員会)

第 10 条 第 3 条に定める事項について、推進委員会の諮問を受け、より具体的な見地から審議を行うため、推進委員会のもとに内部質保証推進実行委員会を設置する。

- 2 内部質保証推進実行委員会に委員長を置く。委員長は学長の指名によるものとする。
- 3 内部質保証推進実行委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
  - (1) 学長の指名による委員長
  - (2) 副学長(副学長が数名あるときは、副学長のうち学長が指名する者)
  - (3) 学長補佐
  - (4) I R 室長
  - (5) F D ・ S D 委員長
  - (6) その他学長が指名する者

(全学評価委員会)

第 11 条 第 3 条第 1 号に定める事項について、推進委員会から全学的方針の指示を受け、各組織に自己点検・

評価を指示し、またその結果を集約し、推進委員会に報告を行うため、全学評価委員会を設置する。

2 全学評価委員会に委員長を置く。委員長は副学長(副学長が数名あるときは、副学長のうち学長が指名する者)とする。

3 全学評価委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 大学チャブレン
- (3) 学部長・研究科長
- (4) 学部チャブレン
- (5) 基礎総合教育部長
- (6) 学長補佐
- (7) 学科長
- (8) 教務部長
- (9) 学生生活部長
- (10) 入試部長
- (11) キャリアデザイン部長
- (12) 地域連携・教育センター所長
- (13) ボランティア活動支援センター所長
- (14) グローバルキャンパスセンター所長
- (15) 総合研究所長
- (16) 内部質保証推進実行委員長
- (17) IR室長
- (18) FD・SD委員長
- (19) 大学事務局長
- (20) その他学長が指名する者

第12条 全学評価委員会は、毎年度1回以上、全学評価委員長が招集する。

2 全学評価委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって決する。

(各組織の自己点検・評価の推進)

第13条 各組織は、全学評価委員会の指示を受け、それぞれの所管する事項について、自己点検・評価を実施する。

2 各組織において、自己点検・評価の推進に関する体制を置く。体制の構成及び運営に関する必要な事項は、当該組織が定める。

(大学プロジェクト)

第14条 第9条第2項に定める事項について、推進委員会から指示のあった改善活動及び各方針の実施にあたり、より具体的な見地から審議を行い、各組織における実行を支援するため、推進委員会は、大学プロジェクトを設置する。

2 大学プロジェクトの長及び構成員は、教職員より推進委員会が指名する。

(事務担当)

第15条 推進委員会、全学評価委員会、大学評議会及び大学評価会議の事務は、学長室が務め、内部質保証推進実行委員会の事務は、大学総務課が務める。

(改廃手続)

第16条 この内規の改廃は、大学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

1. この内規は、2020年4月8日から施行し、2020年4月1日に遡って適用する。
2. この内規の制定に伴い、「聖学院大学点検評価規程」（1994年6月27日施行）及び「聖学院大学教育改革プロジェクト・ワーキンググループ内規」（2013年4月1日施行）は廃止する。

附 則

この内規の改正（第4条第1項、第10条第3項、第11条第2項）は、2021年4月1日から施行する。

附 則

この内規の一部改正（構成員の追加及び削除、事務担当関係）は、2024年4月10日から施行し、同年4月1日から適用する。

大学等名	聖学院大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	聖学院AI・データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）	申請年度	令和7年度

## 取組概要

### 目的

本プログラムは、学生のAI・データサイエンスへの関心を高め、それを適切に理解し活用する能力を育成することを目的としたプログラムである。

### 科目構成と修了要件

#### 【2025年度以前入学生】

以下の2科目4単位を修得すること

対象学部学科	科目名	単位数	授業形態
全学部学科	AIと情報リテラシー	2単位	対面
全学部学科	データサイエンス入門A	2単位	対面

#### 【2026年度以降入学生】

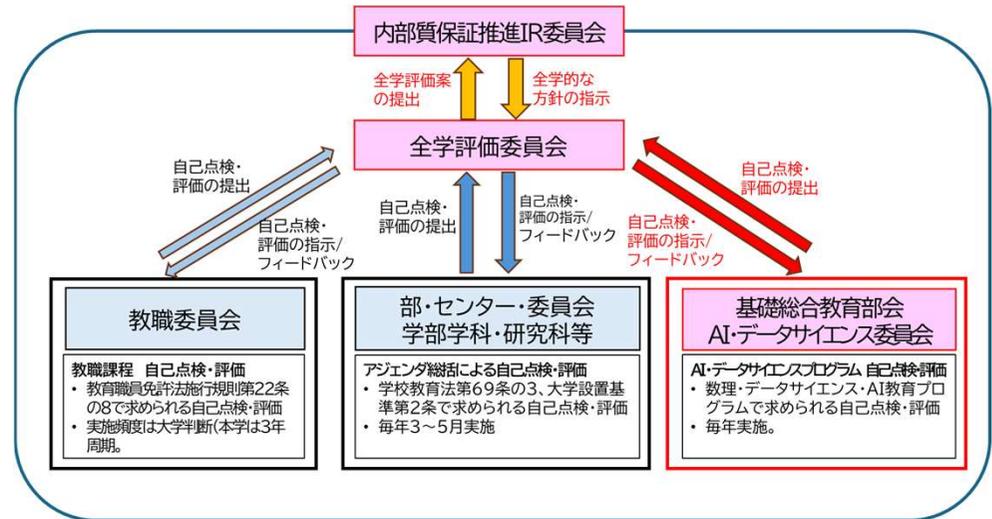
以下の2科目4単位を修得すること

対象学部学科	科目名	単位数	授業形態
全学部学科	AI入門	2単位	対面
全学部学科	データサイエンス入門	2単位	対面

### このプログラムで身につけることのできる能力

- ・データおよびAIの活用の際に求められる倫理的・法的な観点について理解を深め、個人情報の保護に関する基本的な配慮と責任を持って行動できる力。
- ・AIに関する基礎的かつ正確な知識を習得し、AI技術がもたらす社会的変化に対して臨機応変かつ主体的に対応できる力。
- ・データサイエンスの基礎的知識とスキルを習得し、データを適切に読み解く力および、その内容を正確に伝達する力

### 実施体制



#### 【運営責任者】

伊豆田 義人(基礎総合教育部 教授)

#### 【プログラムを改善・進化させるための体制】

基礎総合教育部会、AI・データサイエンス教育委員会

#### 【プログラムの自己点検・評価を行う体制】

内部質保証推進IR委員会、全学評価委員会

#### 【学生へのサポート体制】

ラーニングセンター(PC操作・学修サポート等)  
情報センター(情報セキュリティ・技術サポート等)